

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択（卒業）
授業科目名：音楽Ⅰ 英語表記：MusicⅠ		単位数：1単位 （半期）演習	担当教員名：瀬戸奏、小川弥輪 浅見彩賀、源田久美、 関田彩夏、野本裕美子
ナンバリング：2325			担当形態： クラス分け、オムニバス
科目／系列	大学が独自に設定する科目／保育の内容・方法に関する科目		
施行規則に定める科目区分 または事項等／教科目	／		
【授業の到達目標及びテーマ】			
1. 季節の歌（春・夏）の必修課題曲の弾き歌いができる。 2. （ピアノ初心者）バイエル75番以上、（ピアノ経験者）3曲以上の楽曲を弾くことができる。 3. 基礎的な楽典を説明できる。			
【授業の概要】			
1. 合同授業 音楽の基礎となる楽典を学び、保育、幼児教育で使用される歌唱曲（童謡、遊び歌など）を習得する。 2. 個人レッスン 幼児教育、保育現場で必要とされるピアノ演奏の基礎技術と知識の習得を目指す。学生一人一人のレベル、能力に合わせてマンツーマンでレッスンを行う。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			○
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			○
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】 授業90分のうち、45分を合同授業（担当：瀬戸）、45分を5クラスに分けて個人レッスン（担当：小川、浅見、野本、源田、関田） 第1回：オリエンテーション 第2回：楽典① 楽譜の基礎（五線・音部記号・小節線） マンツーマンによるレッスン 第3回：楽典② 音名、音符・休符の種類 マンツーマンによるレッスン 第4回：楽典③ 拍と拍子の種類① マンツーマンによるレッスン 第5回：楽典④ 拍と拍子の種類② マンツーマンによるレッスン 第6回：楽典⑤ 調号と音階		【授業時間外の学習】 〈合同授業〉 授業で課題となった曲の練習を行うこと ・「子どもの歌」弾き歌いの練習 ・手遊び、指遊びの練習 ・試験曲の練習 配布資料の楽典ワークを用いて学習すること （毎回1時間）	

マンツーマンによるレッスン		〈個人レッスン〉 毎回のレッスンで課題となった曲の練習 (1日15分以上、1週間に合計1時間以上)
第7回：「子どもの歌」弾き歌い(春の歌)歌詞の理解		
マンツーマンによるレッスン		
第8回：「子どもの歌」弾き歌い(春の歌)歌い方の指導		
マンツーマンによるレッスン		
第9回：手遊び・指遊び 教員による提示と個人練習		
マンツーマンによるレッスン		
第10回：手遊び・指遊び 2人組に分かれての練習		
マンツーマンによるレッスン		
第11回：「子どもの歌」弾き歌い(夏の歌)歌詞の理解		
マンツーマンによるレッスン		
第12回：「子どもの歌」弾き歌い(夏の歌)歌い方の指導		
マンツーマンによるレッスン		
第13回：「子どもの歌」弾き歌いのまとめ 復習		
マンツーマンによるレッスン		
第14回：「子どもの歌」弾き歌いのまとめ 小テスト		
マンツーマンによるレッスン		
第15回：「子どもの歌」弾き歌いテスト		
マンツーマンによるレッスン		
定期試験：実技		
【授業の方法】 合同授業と個人レッスン（ピアノ実技指導）。合同授業では課題にコメントを入れてフィードバックを行う。個人レッスンでは一人ひとりの進度、練習に合わせてフィードバックを行う。		
【テキスト】 『こどものうた100』小林美実監修 チャイルド社 個人レッスン 初級者は『バイエル』 既習者はレベルに合わせて選曲		
【参考書・参考資料等】 合同授業では楽典、楽曲分析に関する資料を配布する。 個人レッスンでは個人のレベルに合わせた曲を紹介する。		
【学生に対する評価】 必修課題曲の習熟度（ポートフォリオ配布）（30%）、小テスト（10%）、授業参画度（受講上の注意を守る）（10%）、実技試験（50%） ※ルーブリック評価表を学生が確認できるように開示し、それに基づいて評価を行う。		
【履修上の注意】 自己学習の予習、復習が大変重要である。特に、今までにピアノ学習経験のない学生は努力する必要がある。		
実務経験の有無：無	実務経験：	
【実務経験を生かした教育内容】		